

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	平成29年度第2回吉川市介護福祉推進協議会
開 催 日 時	平成29年10月17日(火) 午後7時から 午後8時40分まで
開 催 場 所	吉川市役所 201会議室
出席委員(者)氏名	堀田聰子委員、相羽直人委員、戸張英男委員、中里繁守委員、川尻詠子委員、村岡礼子委員、飯田大輔委員、酒井一男委員、浅見文男委員、近江谷キヌ子委員
欠席委員(者)氏名	
担当課職員職氏名	健康長寿部 部長 鈴木 昇 長寿支援課 課長 櫻井 敬雄 課長補佐兼高齢福祉係長 大瀧 和博 課長補佐兼介護給付係長 石塚 晶則 介護認定係長 中村 久美 高齢福祉係主査 木村 みのり
会議次第と会議の公開又は非公開の別	(1) 第7期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の基本理念について (2) 第7期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の骨子について (3) その他
非公開の理由(会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	第7期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画体系組換え表 総給付費の推移 平成29年度第1回吉川市介護福祉推進協議会会議録 第7期高齢者福祉計画・介護保険事業計画に記載すべき事項 第7期吉川市小売者福祉計画・介護保険事業計画骨子案

会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	中里繁守委員、近江谷キヌ子委員
その他の必要事項	なし
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	<p>1 開会</p> <p>それでは、定刻となりましたのでただいまから、平成29年度第2回吉川市介護福祉推進協議会を開催させていただきます。ただいまの出席委員は10名中9名でございます。過半数に達しておりますので協議会が成立することをご報告申し上げます。それでは早速ではございますが会議をはじめるとにあたりまして、堀田会長より一言御挨拶いただければと思います。よろしくお願いいたします。</p>
堀田会長	<p>よろしくお願いいたします。今日は今までのみなさんの様々な議論をふまえて、理念とそれから骨子の案を出していただいているということですので、本日この理念一番本意になるところだと思います。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。それでは早速ではございますが、議事のほうに入らせていただければと思います。ここからの進行につきましては、堀田会長にお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。</p>
堀田会長	<p>(1)第7期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の基本理念について</p> <p>よろしくお願いいたします。それでは事務局のほうから、資料の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(基本理念について資料説明)</p>
堀田会長	<p>ありがとうございます。これは参考資料で基本理念にむけた事務局で</p>

事務局	<p>も、頭の整理のようなことを、これまでを踏まえてやってくださっていると 思いますけれども、少しそこを紹介できますか。</p>
堀田会長	<p>(説明)</p> <p>ありがとうございました。それでは、基本理念案、事務局からは資料 1の4つを出していただいています、この中からこのままではなくて よろしいということのようですので、これを見てどうということでは なく、皆さんの参考資料もお示しいただいたところですので、あらためて 今回のこの資料とそれから前回も様々この地域の吉川市の方々からの お声というの、みなさんで共有したところですので、あらためてどう いう考え方でこの理念というのを決めていけばよいのか、あるいは理念 の中でこういった言葉を大事にした方がよいのではないかなど、何でも結 構でございますので、ご意見があればお願いいたします。</p>
近江谷委員	<p>意見の前に、ちょっと戸惑いましたけれども、ご案内の中に同じ資料 をご用意いたしますので持参は不要ですと入っていますので、みなさん 持って来ているようですけれどもそれはお願いいたします。質問です が、4理念の1,2,3,4全部入っていますし、いただいた資料読んで きた中にも、地域という言葉がたくさん使われていて、この1,2,3, 4の中にも使われていますが、この地域というのは、意味というか、範 囲というか、いただいた資料の中でたくさん使われていまして、この地 域は範囲を示すものなのか、意味なのかちょっとわかりにくいので、そ この見解を教えてくださいませんか。</p>
堀田会長	<p>一番難しい、そして大事なところをおっしゃっていただいたと思いま す。普通はこの何々計画など行政が組まれるときは基礎自治体の全体を 見ながら、その中でも生活圏域ごとの様子を踏まえつつとなるわけ ですが、初回するときにも住んでいる場所と日常生活している場所、勉強して いる場所、働いている場所、趣味の場所といろいろ広がっていると思 います。実はこの地域というのは、どこをいうのかということが非常に大 きなことだと思いますが、事務局からお答えになることがあれば答えて いただいて、他の委員の方々、この地域どうなればよいかご意見等願 いします。</p>

事務局	<p>地域の基本理念なので、基本的には市全域をとらえてイメージはしているものなのですが、ただ基本的に介護保険の計画、日常生活圏域、ここでの地域は広い市全体のことをイメージしています。</p>
近江谷委員	<p>そうですか。いただいた資料を読んでも本市とはいつているところ、吉川市とはいつているところがあり、地域と本市と吉川市とどう違うのかと思いました。</p>
堀田会長	<p>ありがとうございます。理念の中によく地域と入るのですが、これをどうとらえるのかという話です。今のご指摘いただいた点、地域をどうとらえるか、本市ではなく吉川市をつくる、地域をつくる、その点でもそれ以外の点でも、この例はよくないと考えています。</p>
飯田副会長	<p>地域を固定的に考えずに、流動的なイメージで捉えていて良いのではないかと思います。その都度、目的に応じて属するところも違ってきて良いのではないかと、そういう流動的なものとしての側面もあると思うので、小学校区域みたいな固定的に考えなくても良いかと一方では思います。ただ小学校区域ですと捉えて何か決めておいたほうが良いところもあると思います。そこは結構本質的な議論のあるところです。</p>
堀田会長	<p>地域をコミュニティーととるのであれば、物理的な圏域というだけではなく、関心やテーマに応じたつながり、ネットワークといったものも、コミュニティーといえれば両方あります。エリアのネットワーク、物理的なものもあるが、いろいろな、働く、学ぶ、関心に応じたつながりもありますので、ゆるやかに地域というものを捉えておいて良いのではないかと思います。</p>
飯田副会長	<p>吉川市民も、行政区としての吉川市にとどまることなく生活をしていると思いますので、そういう幅はあっても良いのではないかと思います。</p>
堀田会長	<p>ありがとうございます。この地域について、あるいはそれ以外でも、かなりいろいろと悩んで4つ出してくださって、似たような、似ていな</p>

<p>近江谷委員</p>	<p>いような、案2だけが高齢者がと入っていないのですが、出来るだけ前向きな感じを出して下さっていて、皆さんそれぞれ高齢者福祉計画、介護保険事業計画の位置づけからして、単純にどれが良いかということだけでなく、皆さんそれぞれこだわらべきテーマがあればお願いしたいです。</p> <p>私は今地域という言葉を出させていただいたのですが、いろいろな資料を読ませていただいて、今おっしゃったように、どこからどこまでとかというイメージは持たないで読んでいます。このように資料として配って下さっているわけで、どのような観点を持って地域という言葉を選ばれたのかというところが気になったところです。フレキシビリティに使用していただいても、私もイメージ持っていますので、本市と使ったり、吉川市と使ったりしてしまうと逆に限定してしまっているのでは、ひとつひとつの文章の中では地域という言葉が間違っているということをお聞きしたいです。</p>
<p>堀田会長</p>	<p>これは地域なりコミュニティなり、たかが理由なのかもしれないのですが、地域と理念に入るのであれば、その地域をどうとらえるのかというのは、短いメッセージとして入っていても良いのかもしれない。基本は勿論、性格上物理的な圏域ごとにというものですが、市の特徴でもあるのであろう広がりといいますか、経済圏としても生活圏としても広がりがあるものだと思いますので、繋がりという意味でもコメントをとらえると書いても良いのかもしれないです。待っていると出てこないようですので、みなさんこの案1, 2, 3, 4に直接ではなくても、みなさんのこだわり、次の第7期の計画の中で、この点はこだわってほしい、こだわっておきたいということがあれば、一言ずつで結構ですのでお願いしたいと思います。</p>
<p>浅見委員</p>	<p>この案の中で、スタートですから吉川市全域の案が良いと思います。実際、細部にわたりまして、要介護者にタッチする場合には、やはり大勢を1人で介護できるものではないので、その辺小さい地域で、1人の者が3人ぐらいを看るとなると、そういったものが必要となってくると、必然的に小さな地域になってくると思います。実際携わってみてス</p>

堀田会長	<p>タートしても、遅くはないのではないかと思います。</p> <p>特にさまざま地域の中で、いろいろな活動をしている動きを一番ご存知だと思います。年を重ねたベテランの方々、今までパワーを発揮されている様子を一番近くで見ていると思いますが、その上で立場を踏まえて第7期に、こんなこだわり持ってほしいとか、同じ年齢でももっと弱っている方たちもいらっしゃるわけですが、浅見委員の立場で、こんなメッセージを第7期に込めたいということがあれば。</p>
浅見委員	<p>そうですね、今のところ手前どもは見守り活動ということで活動しております。34単位クラブがあるのですが、その範囲で3人一組になりまして、多いところは3団体で少ないところは1団体で、それで安否確認をやっているところがございます。さらに重度になりますとタッチしておりませんが、その辺については民生委員さんとかと連携をとりながらタッチするわけです。だから、1人でそんなに受け持つことは出来ないということで、3人くらいとなると地域がある程度決められていくのではないかと考えているのですが、実際そのようにやっております。</p>
堀田会長	<p>そうしますと、見守りや安否確認、繋がりと考えていくうえでは、小地域に嘱した活動を今も展開されているということです。大きな理念としてもですが、そのあとの骨子をみていくうえでも、浅見委員の視点をベースに考えていきたいと思います。</p>
戸張委員	<p>案の3の、高齢者が住み慣れた地域で安全に暮らす支える地域をつくる、これが全般的なものが全部入っていきそうなので、この辺を足していったりしていけば良いかと思いました。</p>
中里委員	<p>基本理念の4番は、要介護状態となってもと、文章的にどうなのかと、これは無くても良いのではないかという気がします。1, 2, 3で十分な基本理念がある程度含まれているのではないかという気がしています。</p>
堀田会長 事務局	<p>理念は、相当シンプルな感じで、一行、そんな感じのものですか。</p>

中里委員	<p>だいたいそうです。できればキャッチフレーズ的に使えるようなかたちで、作れば一番良いです。</p>
堀田会長	<p>事務局の方が考えてくれたのですが、4番の要介護状態となってもというのはどうなのでしょう。</p>
中里委員	<p>私は好きではないです。中里委員がおっしゃったこの要介護状態となってもという表現は、避けたほうが良いのではないかとということですが、逆にこういう言葉なり、こういう考え方はしっかりと中に、40文字位の中に入れてほしいというのはありませんか。</p>
堀田会長	<p>同じような言葉がならんで出てきますので、これから皆さんで考えていただけるテーマだと思います。</p>
村岡委員	<p>あまりこの4つにとらわれていると、だんだん言うことが無くなってきてしまいますので、ちょっと離れていただいて、日頃の臨床の中からもよろしいです。</p>
堀田会長	<p>よくプランを作るときに、安心とか書かないように言われるので、その人にとって何が安心かというのは皆さん違います。キャッチフレーズなどには安心とか書きがちなのですが、そういう言葉ではないほうが良いのではないかと思います。逆に、どうしたら不安じゃなくなるかというのは、もっと細かいところで作っていくのだと思います。今直面しているというところで、介護をする人がいないところで、介護職員の就職に関してとか、資格に関してとか、総合事業というのが始まったのですが、まだ吉川市では広がってはいないので、これから生活援助とか介護保険とかが狭くなっていくという話もありますので、資格がなくてもできるような、最初の部分は市の方で後押しをして、もう少しシルバー人材センターですとかそういったところで買い物だけとかできるような後押しをしつつ、一番困る食事とかは填補されれば良いかなと思いました。</p>
	<p>とても大事な、キャッチフレーズとしてよく安心や安全と入っていますが、それがどのようにして何が整えばその人の安心になるのかという</p>

川尻委員	<p>ことが、もう一段具体的に入ってくるのではないかということです。もうひとつ、理念の中に入れるのか、それとも骨子のほうかもしれませんが、担い手という視点です。</p> <p>自らのと、一番目にあると思いますが、高齢になってくると、やっってもら側になっていきがちなので、インタビューでは元気な方へのインタビューが多かったかと思います。要支援・要介護でも、地域の資源になっていくのだという方向性がすごく良いのかという気がします。前向きな感じが良いと、まだ若いしということもあるので、そういう意味では攻めのほうが良いのかと感じました。</p>
堀田会長	<p>前向きのことと、要介護であっても、担い手と言いますか、受けるだけではなく、参加する側になっていけるという、メッセージが入っていてもいいのではないかということです。聞けば聞くほど悩みます。</p>
酒井委員	<p>前回休みまして、休んだからというわけではないのですが、自分の知識の中に入ってきてないものがあり、勉強しているところなのです。皆さんのご意見を伺いながら、今の段階では申し訳ありません。</p>
堀田会長	<p>わかりました。</p>
近江谷委員	<p>私が一番気になるところは、案1です。自分の健康は自分で守ることが、意識もそうですし、行動もそうです。それをしなければ、それをしなければと言うのですがこういうのを啓蒙というか、それもとて必要なことだと思います。どういうふうに自分が健康か、病院にかかっていて自分はこういう病気になっているという自覚があるのかもしれないけれど、それ以上悪くならないようにどのようにすればよいかということも含めて、健康意識というか、そういうことが全ての基本になるのではないかと思います。なまらん体操も自治会の中で3割しかしていないという現状などもあり、これをどんどん広めていくことが医療費の削減にもなりますし、アンケートにも幸せ感を問うとありましたが、幸せにもつながりますし、私は医療職でありますので、医療職でなくても自分の健康は自分でという意識をどう育んだらよいのか、どのように</p>

堀田会長	<p>持ってもらったらいいのかというのが、私の周りの地域、コミュニティーでもそういう人達と触れ合うとそれを感じています。案の1は気になるところです。気になるというか、基本になるのではないかと、それがあって、2,3,4といくのかと受け止めています。</p>
近江谷委員	<p>ありがとうございます。どうやって、自分で自分の健康や幸せを育んでいく、主体は自分自身だということの意識をどうやって浸透させていくかということです。</p> <p>今来る前に、国保年金課の方と話してきたのですが、自分の特定健診の結果を持っていったのですが、そういう話題になりました。健診を受けて自分の健康状態を知るといふのをどのようにしたらよいかという話もしましたが、その辺をどのように広めていくというか、啓蒙していくかということがとても大事で、それがなくなかなかわからないのではないか、自分の健康状態をわかられていない方がいらっしゃると思いますので、そういう方を含めてどのようにしたらよいかということを考えての方が良いと思います。</p>
堀田会長	<p>ありがとうございます。</p>
飯田副会長	<p>かなり難しいのですが、この参考資料のほうを見ると、介護保険法が一番左にあって、高齢者福祉計画は根拠法が老人福祉法になると思うので、介護保険法の要請でこの計画を作らなくてはいけないもので、保険料算定の基礎になるということから重要ということ間違いありません。同時に老人福祉法の重要性もあります。老人福祉法の基本理念のところ結構忘れられがちなのですが、第3条のところに、老人は、その希望と能力とに応じ、適当な仕事に従事する機会その他社会的活動に参加する機会を与えられるものとするところがありますので、今後を考えていくと介護保険の予防という意味も含めて働くとか社会に参加するといった、そういう機会を意図的に作っていくというのが極めて重要になってくるのではないかと考えています。なので、参考資料としては、一番左側に老人福祉法の理念というものも持ってきておかないと、ちょっとずれてしまうところがあるのではないかと、大事なところが抜けてしまうのではないかと時々思います。</p>

堀田会長

このベースからも今期の計画に繋がっているとすると、今の話しは高齢者になっても年を重ねていっても仕事働くということもはいついてよいのではないかということです。担い手としてということですか。今、複数の方々がいろいろな担い手についてふれられて、高齢者が担い手としてという意味合いと、ケアする方をどのようにという話と、両方ともあったと思いますが、今ひとあたり皆さんの理念、こだわりというものを話しいただきました。まず地域というものをどうとらえるのかという問いがありました。これは地域というものを理念なり総本文に書いていくときに、地域を必ずしも物理的な圏域だけではなく、いろいろな繋がり、テーマに基づく繋がりとしてもとらえていっても良いのではないかという話もありました。それから他方では地域で繋がりをつくっていく友愛活動などを展開される立場、あるいは見守りなどをなさっている立場からすると地域はとても小さく活動する地域をつくっていった方がよいのではないかというような話もでました。それから、要介護状態となってもというのは入れなくても良いのではないかということです。全体を通じてもつ前向きなメッセージをだしていくことが大事ではないかということが比較的皆さん通じていたことだったのではないかと思います。さらに、担い手ということに関しては、高齢者自身が要介護になっても、年を重ねていったら支えられる人ということではなく、地域の中でその人自身が参加して行って、あるいは仕事をしていくというニュアンスもあって良いのではないかということもでたと思います。その背景、その基盤には本人が自分の人生をデザインしていく、自分の健康、自分の人生をしっかりデザインしていくという意識がしっかりと痛感していけるようなメッセージも入った方が良いのではないかということです。しかし、これを一行の中にどのようにという感じですか。これは、もう少し意見交換をした方が良いのか、今の感じのところでお聞き取りいただくということで良いのか、多分同じところに戻りそうな気がします。市長のこだわりもお願いします。

市長

危機管理、防災関係をしていても教育をしていても一番感じるのは、やはり3つの方向が大事で、1つは自助、もう一つは共助であり、最後は公助なのです。教育も学校で法的に教育するのと、地域で教育していく寺子屋事業とか、そして自助というのは家庭できちんと教育していく

	<p>というこの3本柱が常に大事だと思っています。今回この高齢者に対する、介護に対する視点もその3つがバランスよく入ると幅広く理解してもらえるキャッチフレーズになるのかと思います。自助で自分達が活躍して行ける場をこれから作っていかなくてはならないし、自分達もそれを獲得していかなければならないというメッセージと地域で繋がりをもって支えあっていくのだということと、安心といった部分で法的なものがきちんと安心、私は安心ではなく不安なくといった言葉の方がすごく伝わるのではないかといつも思っているのですが、不安なく生きていけるというのが、法的なものがにあうというような、その辺のキーワードが最低1文で収まるようなものだと、皆さんが言ったことがまとまるのかと思って聞いていました。</p>
堀田会長	<p>理念の中に前向きなものだけを取り出しておくのか、それとも不安なくといったベースのところまで置いておくのかといったところですが、ひとあたり皆さんの意見を聞かれたうえで、改めてということがあればお願いします。今の状態だと漠然としすぎて困るということなのか、案1～4だけを候補に投票するというものでもないと思うのですが、いかがいたしましょうか。</p>
事務局	<p>できましたら一番の理想は、文章化ができれば一番ですが、次回の推進協議会の中では素案というかたちで最終的なある程度のものを作りたいと考えておりますので、盛り込む言葉、方向性、そういうのは少なくとも今回の会議の場で決定いただければ、最終的に文章を繋げるというのはもう一度事務局の方で案を作らせていただいても構わないと考えておりますが、できましたら文章化できると一番有難いです。</p>
飯田副会長	<p>文章までは難しいのではないですか。</p>
中里委員	<p>昔から、衣食住ということ言葉がありますが、私最近衣食住で理解しているのは、「い」は衣ではなく医療介護の医をあてて、「しょく」は食事で生活の中で高齢者でも大切なことですので、「じゅう」住は第3案の地域で安心して暮らせるようなというような、簡単なキャッチフレーズを頭に考えますと多少、衣食住の中から文章ができるのではないかという気がします。</p>

堀田会長	<p>ありがとうございます。最近、衣食住をこういうのに使うときは、「しょく」を食べると仕事の職と両方かけてひらがなで「い・しょく・じゅう」として、「しょく」を2つにとり、「じゅう」を住まいだけではなく、住民とかけるなど、自治体の皆さんいろいろ考えています。シンプルにということです。キーワードどうでしょうか。</p>
市長	<p>先生の意見もお聞きしたいです。前回自助というのがあまり強すぎてでも押し付けのようになるのは危険性があるのではないかとおっしゃっていたと思ひまして、どの辺のバランスを先生はベストだと思っているのか聞きたいです。</p>
堀田会長	<p>これは行政のたてる計画の理念にあがるものは、こういった守護でだすのが難しく、今市長が出して下さったこの自助力を高めというのを、行政がだすのはどうなのだろうというのもあり、他方で生老病死、生まれてから死ぬまで、生老病死を地域住民の手に取り戻そうというようなムーブメントでいろいろ活動していたりするので、基本は近江谷委員もおっしゃってくださったように、自分の手で自分の人生を切り開いていってという力を高齢者だけでなくということだと思ひのですが、これを行政の計画の中で自助力をとすると、先程市長がおっしゃってくださったところの互助、共助が安心して支えられて発揮される自助とよくそういう言い方をされるのですが、基盤があつてこそ発揮される自助が育まれるような発揮されるような環境を作るといふようなことが大事と言われていることもあつて、ややこれもひっかかるということもあります。それは国で地域共生の議論をしていたときに、我が事まるごと地域共生社会本部というのができたのですが、国が我が事といふのはどうなのかという議論がかなりありまして、住民団体からだしてもらったようなのですが、自分のことは自分達でと、仲間達とやるのはいいのですが、この位置づけをどのように考えるかが、それもこの決断ではあるのですが、難しいところで考えるところです。</p>
市長	<p>先生も今おっしゃったように、共助、公助からはじまって、その後から高齢者の人達が自ら生きていくといふか獲得した力がうまれるような地域づくりといふように、順番をひとつ、ずらただけで先生がおつ</p>

堀田会長

しゃった雰囲気というのが出せるのではないのでしょうか。自助からせまると家庭の教育からやりなさいみたいな感じがしますが、すべてがそうではないわけで、学校や地域で教育を支えるからこそ、母親が頑張って教育ができる。先生がおっしゃるとおりだと思います。それを高齢者に自助をひとつ、ずらすだけでも。

それはあるかもしれません。地域の他方で先程村岡委員のおっしゃったことがとてもひっかかっている、安心して支えられて発揮される自助、何もなくて自分で全部よろしくというのはとてもきつく、地域の中で何かあったら、不安なくとおっしゃいましたが、何かあったときには頼れる人がいるとかというのがあから、ぎりぎりまで自分で考えるなど言われるのですが、それではその安心に支えられてという安心を、安心という言葉ひとつをおろした形でどのように書くか、自助を後ろにもってくるうえでの要件としての地域の姿として、地域の不安ない安心な状態というのは、それは逆に下の方につながりなどの方にあるのかもしれないのですが、今市長がおっしゃってくださった自助を後ろに下げるといってもひとつのアイデアだと思いながら、前のどういう地域の状態ができているとそれが湧き上がってくるのかというのが、考えどころかという感じがします。

近江谷委員

公助のところで、いただいた資料で気になったところが、地域包括支援センターという存在というか、それが15.2%、日常生活圏域の調査結果では、困ったときの相談窓口としている場所は、地域包括支援センターや役所や役場で、地域包括支援センターは15.2%になっているのが現実となっているのが気になります。地域包括支援センターが15.2%と非常に低い相談窓口になっています。どうしたら公助として広がっていくのだろうということを考えると、自助、共助も、共助のところでは私が住んでいるネオポリスでは、アンケート調査やニーズ調査で答えて下さる方が決まっています、それは調査の状況なのかということもあり、共助も落ち着いていないというか、広まってないです。気持ちとしては、皆さんあるのですが、そういう言葉というのは、知っている人は知っていますが、知らない方が多いのではないかと思いますし、15.2%というのが気になっています。

堀田会長

<p>近江谷委員</p>	<p>地域包括支援センターの周知度が低いということが、いざというとき安心を支える基盤として、地域包括支援センターが十分に浸透していないのではないかということです。</p>
<p>村岡委員</p>	<p>そうです。</p> <p>地域包括支援センターがはじまったのが、介護保険の高齢者の安定ということからはじまっていて、だんだんいろいろなところに広がってきている団体なので、まだ介護が必要になった人が尋ねて行くところという感じですので、周知度が低いのだと思います。これから、子供や障がい者などいろいろはいつていくなかでは、どんどん広がっていくのかと思います。</p>
<p>堀田会長</p>	<p>これは次の骨子の方で関係することになると思いますので、次の議題までとっておきたいと思います。そして、理念ですがいかがいたしましょうか。あと、もうひとつ、自助、共助、公助とおっしゃってくださったのですが、これは必ずしも定義が国内でも共有されておらず、地域包括ケア研究会では共助は社会保険でカバーする、介護保険や医療保険のところを指していて、公助はそこに含まれる福祉や税金を使用するようなところ、いわゆる地域の中での支えあいみたいなものを互助とっていますが、その言葉もなかなか整理がついていないところですので、理念案の中に自助は入っていますが、互助・共助・公助という言葉は使われていないので良いのですが、なかなかこの言葉をうまく解釈して入れ込んでいくのは難しいと思います。ここで、皆さんがおっしゃったのが、前向きにと参加していく、仕事をしていく、担い手になっていく、そのようなイメージを、案1に組み込みながら理念の文章にしようとする、支え手、担い手のような言葉なのか、でもさすがに高齢になっても参加し、仕事と言われても、もう疲れたからという方もいらっしゃるのでは、どのようにしましょうという感じですが。</p>
<p>川尻委員</p>	<p>地域の支え手となってしまうと、押し付け感があります。ちょっとしたことでも、という感覚ではいるのですが、地域の支え手となってしまうと何かしてあげなくてはいけないという感じで受けてしまうのではないのでしょうか。</p>

飯田副会長	<p>まだ支え合いの方が無難にはなります。</p>
堀田会長	<p>支えあいとか繋がりがあって、発揮されていく、あるいは高められていく自助というのはあるかもしれませんが、もうひとつは皆さんいろいろ考えていただきながらですが、この理念の案の中に、高齢者というのは入った方が良いでしょうか。案には高齢者と入ってないのですが、案4の要介護になってもというのは、これは明らかに高齢者をイメージしているというのは明確にわかるわけですが、案にはより広く取ってその中にももちろん高齢者も入っていますということなのですが、ここはどうでしょう。</p>
村岡委員	<p>いくつになってもなど、もう少しやわらかくしてもよいのではないのでしょうか。</p>
堀田会長	<p>ありがとうございます。他の方々どうでしょう。</p>
浅見委員	<p>高齢者の立場からですが、やはり高齢者を謳ってもらった方が良いでしょう。</p>
堀田会長	<p>謳った方が良いでしょうか。そうですね、わかりました。</p>
飯田副会長	<p>介護保険的に言うと、保険事項40歳から適用になります。40歳で高齢者と言われてどうかという問題もあります。</p>
堀田会長	<p>明確に高齢者とは書かずに、逆に人生100歳時代のとかいうのもあります。人生100歳時代に何々の地域を作るとはじめて、もちろん高齢者も入っているでしょうという、もうすぐ人生100歳時代にはいつてくるでしょうという感じで、そして、戸張委員は案3の地域包括ケアのそのままもってきました、これが結果的にはいろいろ包含するというご意見でしたが、改めてさまざまなご意見を聞かれてどうでしょう。</p>
戸張委員	<p>安心という言葉は入れない方がよいというご意見がありましたので、市長が言った不安なくという言葉を使って、たとえば高齢者が住み慣れ</p>

堀田会長	<p>た地域で健康で不安なく暮らせる支え合いのまちをつくるというのはどうでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。私はこの住み慣れたというのがあまり好きではないです。これはいろいろなところで議論があって、住み慣れたのか、住んでいきたいなのか、必ずしもずっと同じところに住み続けたいのかわからないので、住み慣れたというのはどうなのでしょうという感じがします。</p>
飯田副会長	<p>安心というのもありがちなのですが、安心社会から信頼社会へという本がありますが、信頼関係がないこと、信頼していないことが不安につながっているところもあると思うので、そういったところも大事だなと思っています。</p>
堀田会長	<p>先ほど、近江谷委員が健康意識を、その後に申し上げた、生老病死を地域住民の手に取り戻そうという考え方というのは、世界的にはコンパッションメントコミュニティという考え方にまとめられているのですが、コンパッションというのは、直訳すると苦しみを分かち合うということです。日本語でいうと好感といわれたり、思いやりに満ちたと言われたりするのですが、信頼なのか共感なのか思いやりなのかかわからないのですが、日本で言うところの地域包括ケアなり地域共生なりをすすめていこうというような、キーワードとして持ち上げられているのがコンパッションです。</p>
飯田副会長	<p>もう少し、裏側にどのような意味があるか、安心や繋がり、助け合いと言ったときに従来型の農村のある種共同体的な、密着した繋がりということではなく、今、吉川だと新しい町もでき、新しい人達もいるので、それで自立した個が繋がっていくとか、橋渡しされて繋がっていくというような、そういうつながりなら良いと思うのですが、それが従来の互助組織じゃないですが、となり組のような、そういう繋がりの中だと多分真綿で首を絞められてしまうみたいな人たちがでてきちゃう恐れがあるので、目指すべき方向性は自立した個をベースに信頼関係に基づいて繋がっていき、結果として安心した社会ができるみたいなのが、裏側にある意味だと思っているのですが、それを言葉にしてしまう</p>

<p>市長</p>	<p>となかなか難しいです。</p> <p>この文章を少し今の話をまとめて、書いてみて、最後にもんでもらって、預かりましょう。</p>
<p>近江谷委員</p>	<p>これは吉川市の高齢者福祉計画の基本理念を検討中なわけですので、高齢者という言葉を使っても良いのではないかと考えています。でも、高齢者と限定しないでひとつの自立という意味も子供のころからのライフステージがあると思うのです。子どものころから健康維持とかそういったものをもって高齢者になっていくというライフステージから見た捉え方と、先生がおっしゃった生老病死は人間とはといった哲学的なところにいくので、例えばこの高齢者という言葉の人とはとか、これは高齢者福祉計画なので高齢者と使ってもと思いますが、例えばそこに人はとすればすべての人に関わることになると思います。</p>
<p>中里委員</p>	<p>高齢者というのは入れた方が良くと思います。高齢者は高齢者です。団塊の世代で75歳以上が高齢者になるわけですから、わかりやすくとなると、ほとんどが高齢者になるわけですから、自分たちのことだという感じを受けるのではないのでしょうか。ですから高齢者という言葉は入れた方が良くと思います。</p>
<p>近江谷委員</p>	<p>言葉としては高齢者都市計画ですから、この高齢者は急に高齢者になったわけではなく順に老いて生老病死ということになってきているという意識も大事なのではないかと考えます。</p>
<p>堀田会長</p>	<p>私は個人的には入れない方が好きだったりするのですが、今おっしゃったように全ての人には生まれてから日々高齢になっていっているという繋がりがあって、この計画も今期から全ての人に向けた、いずれ高齢者になっていくのでという思いもあって、他方ではお二人のご意見もわかるところで、ちょっと難しいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>先ほど先生がおっしゃった地域というのは、どういう地域だという前提が必要だというところで、2番目の案の強いつながり助け合うことができる地域のなかで、不安なく暮らし、この辺りが公助共助をイメージ</p>

<p>村岡委員</p>	<p> していて、最後に自助的な自らの健康を考えいきいきと、支え手となってしまうときついのであれば、活躍する地域をつくるのではなく、未来をつくるとすると、みんなで行政側も市民も若い人も高齢者もということで、私は高齢者という言葉を使わない方が、自分が歳をとったときに高齢者と意識するのだろうか自分になげかけると中年という意識も全然ないので、すべての世代に訴えていって未来をつくるべきだとしておいた方が私は良いのではないかと思って、この中にある言葉を並べ替えただけなのですが、例えば地域のまえにある、強いつながり助け合う、というところをもう少し違う3つにしようというのはあるかと思いますが、自助共助公助という言葉を使わない方が、ストレートに伝わるのではないかと思います。出た案をうまくミックスするとこんな感じかなと思います。 </p>
<p>堀田会長</p>	<p> いきいきと、というところを例えば誰もが活躍するというのはどうでしょうか。高齢者と入れなくても、小さい子からみんなが活躍できるような未来をというところですか。 </p>
<p>近江谷委員</p>	<p> 未来で良いのかというところもありますが、いきいきと誰もが活躍できる未来をつくる。 </p>
<p>堀田会長</p>	<p> 市長これを皆さん今日持って帰っていただいて、アイデアを投げたいただいたものをまとめて次にお見せするほうがいいのではないですか。 </p>
<p>飯田副会長</p>	<p> 自らの健康を考えるだけではなく、実践してというのをに入れていただきたいです。 </p>
<p>近江谷委員</p>	<p> 他にありませんか。 </p>
<p>堀田会長</p>	<p> 地域福祉計画とかこのような計画は、どうしても空間軸になってしまいがちですが、時間軸になるというのも面白いのではないのでしょうか。 </p>
	<p> その実践の中には、衣食住ということを含めて、実践ということを入れていただければと思いました。 </p>

	<p>誰もが活躍する未来をつくる、この最後は良いと思うのですが、前の2つは長そうです。そして真ん中が不安なく、これで良いのかと、健康と入るのが良いのかと気になりながら、そろそろ持って帰りましょうかというところですか。これもよく言われるのですが、健康とか健康づくりとか健康意識と言われると、そもそも健康に関心がある人しかそこにとびつかないと言われていています。</p>
浅見委員	<p>健康は皆さんが希望するものですね。</p>
市長	<p>そもそも計画、これを見る人は意識が高い人です。</p>
堀田会長	<p>この辺で、これを皆さんに後で送っていただいて、それぞれお気づきの点を誰が出したか分からないように出していただいて、整理して送っていただきたいと思います。</p>
	<p>(2) 第7期吉川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の骨子について</p>
堀田会長	<p>それでは、今日はもう1つ議事があります。資料2、骨子についてということです。骨子案をご紹介いただき、それから当日配布資料の総給付費の推移もお配りいただいていると思います。これも是非ご紹介いただければと思います。お願いします。</p>
事務局	<p>(骨子案について資料説明)</p>
事務局	<p>(給付費の推移について資料説明)</p>
堀田会長	<p>ありがとうございました。骨子案をお示しいただきまして、この前までの議論していた理念とそれに向かっていた前回の地域インタビューの成果など出されたことをワクワクしてながめていると骨子案は意外と前期の延長かもしれないような気もするのですが、まずは皆さん、今日は骨子案を決めるということではなく率直なご意見、まだだいぶ途中という段階のようなので、今後の期待、直前までお話ししたような、皆様がおっしゃった自分で自分の力を回りの支えあい、安心で不安が無いといった、支えあってこそ発揮する、仕事をする社会参加していく、希望</p>

<p>近江谷委員</p>	<p>のある、などいろいろとでていましたが、そのような今まで議論してきた理念のかおりがここにはいっていくのかという視点からも話をいただければと思います。あるいは、もともと意味が解らないといったご質問でも結構です。あるいはご意見、何でもよろしいです。皆様いかがでしょうか。</p> <p>総給付費の推移を見て、唖然と、といいますか、愕然としました。これの負担は、40歳以上、税金と言うことでは一人一人ということだと思いますが、次のところで取り組みを、施策のところで素案を出してただけるといってお話がありましたので、かなり期待したいと思っておりますが、それがこの給付費にかかってくるのではないかとということと、それから資料2の6Pのところの、吉川市の健康増進計画と連携するというあたりが、具体的なものも期待しているところです。内容が具体的なものがないと、分かりにくいと思いますし、市民一人一人という思いも持ちますし、そのように思います。</p>
<p>堀田会長</p>	<p>ありがとうございます。給付費の自然体だとどんだんのびていくというのが、どうしようというところと、具体的にどういう連携をとっていくのかというお話をいただきました。他にいかがでしょうか。私も一委員として関係するところ言いますと、6Pのところできざまな障がい、子供、健康増進と連携と書いて下さっていますが、確か前回だったか申し上げた気がするのですが、特に地域づくりに関係する事業に関しましては、3月31日に通知がだされていますので、障がい者、子ども子育て、健康増進、介護保険、それぞれの地域づくりにかかるお金を一体的に使って取り込んでいけるということも通知が出されているところですので、地域づくりの視点から、これを一体的にそれぞれの出されている問題意識を具体的に取り組んでいるとか何か示されていくと良いと思います。給付費のところに関係するかもしれませんが、高齢者の現況で85歳以上分けて下さったのは非常に良かったと思います。今までの年齢階級別の介護サービスの需給状況や医療の需要の場所とか量みたいなものを見据えたかたちで今後リアルにどのようなものが足りていないのか、どれだけ分析されているかが問われてくると思います。特に在宅を支えるというのがどれぐらいまでいけていて、今後どれくらい見込があるのかというところ、今から調査をかけるというのは難しいと思い</p>

飯田副会長

ますが、リアルな案とどれくらい何が必要なのかということが、しっかり分析されてこの後がでてくるといいなと思います。そして、今まで議論があったような、参加、担い手感をどう出していくのかというのが一番気になりながら聞いていまして、12Pから13Pあたりを見ていると、どうなのかという思いがありました。皆さまいかがでしょうか。今までの、今日の前半の理念や、皆さん暑い中回って下さった地域インタビューの成果をお聞かせいただいて、結構新しいアイデアも入っていたように思いますが、参考資料の方もお配りいただいています、それも照らしながらみていただければと思います。

具体的な施策の方向みたいなものもでてきて、いわゆる計画の相場的計画になってしまいがちな計画にみてとれるのですが、計画上載せておこなうてはいけないというような大人の事情もあるのかもしれませんが、その中でも、全部やるのはとても困難だと思います。全ての施策を本気でやるのはという意味なのですが、なので、ある程度放っておいても自動的に進んでいくような部分もあると思うのですが、問題なく普通に進んでいく施策もあると思うのですが、その中でも吉川市としてどの部分に力を入れてやるのかみたいなことをもう少し明確に出した方が良かったと思います。その中で上げるとすれば、地域包括支援センターの機能強化であれば、先程パブリアの予算包括的に使えるようになりましたという話がありましたが、地域包括支援センターって実は地域包括になっていなくて、高齢者のことしか扱っていないわけです。なので、それで子育て、障がい者、生活困窮の相談も引き受けて、本当の意味での地域包括支援センターみたいなものを吉川市でモデル都市としてやりましょうという、それをやったら3年くらい結構な労力もかかってやると思いますし、この間、介護保険の話で市町村特別給付活用できませんかという話をしたのですが、いろいろ勉強したらなかなか難しいことが分かりました。総合事業を活用した方が良さそうだという結論に至ったのですが、もしそういうのでやるとしたら、民間の事業者とコラボレーション、具体的な例をあげると宅配業者が再配達で困っていると、再配達のところを高齢者の就労機会としてなにかやるとか、モスバーガーが人手不足に困っていて、五反田の駅前にモスジバーというのがあるのですが、店員が全部高齢者です。例えばそういったものを吉川市が民間の企業とコラボレーションして就労機会や社会参加の機会を作り出すとい

堀田会長

うことをやるなど、居住環境、居住支援のようなことならば、新しい法律の居住支援法人のようなものを明確に作りますとか、3つくらいできたらすごいと思います。

今のが全部できたら相当すごいと思います。高齢者、障がい者、子ども、生活困窮と窓口が別々にありますが、それをまるごと受け止めて、対応していく施設をつくっていくかということ在全国的にも86自治体に取り組んでいたりしますので、先程の連携というところも地域づくりと申し上げましたが、相談の受け方ということももちろんあるかと思えます。それから、就労、仕事の点は今日の前半も、第1回の中でも出てきたと思います。これも連携のネタにもしていて、障がい者の就労支援センターがやっていることをもう少し拡張していくという捉え方もあるでしょうし、ベースとして書かなくてはいけないことがあるのは承知の上で、理念に合わせて目玉となる、吉川市は次の3年でこのように新たな方向に行くというものを、誰もが活躍する未来であれば切り口は仕事ですということなのか、不安なくということであればそれは相談支援の方にいきましょうということもあるでしょうし、何か優先順位が見えてくると良いかと思えます。

中里委員

今おっしゃっていた中で、包括支援センターの認知度が低いということは、やはり吉川の場合はハードの面で非常に貧弱です。相談窓口がどこにあって、どういうところに行けば良いかを市民がわかっていないです。社会福祉協議会がありますといっても、非常に狭い建物の中で相談するというような場所じゃないわけです。今度は新庁舎もできるので、そういう庁舎が活用できるということです。もう少しハード面から支援センターを具体的な場所を提供していただければ良いかと思えます。

堀田会長

ありがとうございます。これはいろいろな意見があって、自分の言った意見をひっくり返すようで恐縮なのですが、立派なセンターが出来たとか相談窓口がちゃんとできましたといっても、出来ればそこに行きたくないというのが、相談とは、病気でも、障がいでも、経済的なことでも、自分がきつい状況になっているということを自分は認めたくないの、相談窓口に行きたくないと思います。どちらかという日頃から

<p>中里委員</p>	<p>集っている場所で、何か不安なことがあったら拾ってもらえるというような、センターを立派なものにすることが良いのか、それとも出ていけるようにするということが大事なのか、両方あると思います。箱を立派につくってみても、相談窓口には行きたくないの、みんな居たいと思うところに皆さんがでていけるようなバックアップをすとかというような考え方と両方あると思います。</p>
<p>川尻委員</p>	<p>でも、現状のハードは貧弱です。</p>
<p>堀田会長</p>	<p>私は、担当している圏域は3ヶ所に分けていていますので、事務所が一番端なので、言ってもどこなのと地元じゃない方に関しては、最初に言われます。私達が伺いますからと言え、そうなのねと来てくれるのねという方もいれば、家ではちょっと、行きますと言われることもあります。事務所がわからないから、近くのところで会いましょうというケースもたくさんあります。ここに包括支援センターの機能強化、土日祝日開所などいろいろと書いてありますが、それぞれ受けている法人によっても体制が変わる、職員も入れ替わりが激しいところもあり、いろいろだと思います。その辺をどの程度均衡化していくのももちろん問題ですし、職員の機能強化と言われるとドキッとしますが、仕事ができない感じで思われているのかと、ハード面もそうですし、ソフト面でも職員の質を上げていくのはどうしたらよいか、今4人体制ですが、4人がいいのか、家族の障がいの方の相談もありますし、お子さんのことも相談あります。離婚問題の相談もありますし、いろいろなのですけれども、私達はそこまで受け止められる力量をもっていないということもありますし、時間などいろいろな面もありますので、機能強化という言葉でソフト面とハード面といろいろ考えられるかと思いますが、結局お金ということになっていってしまうのかもしれないですが、一番に包括ケアシステムというところで、センターの機能強化と出ているのが、一番にきてしまうのかという感じを受けたりします。私達はどちらかという地域をバックアップというか、影のという感覚でいるので、住民主体の感覚と少しはずれてしまうのかという気がしました。</p>
	<p>ありがとうございます。大変重要なお意見で、おまけに一番初めに書</p>

<p>村岡委員</p>	<p>いてであると、頑張っているけどというのがありますよね。先ほど飯田委員がおっしゃってくださったところとつなげると、2Pの下の方には総合相談窓口としてのと入っていつているわけですが、そのように考えるのであればソフトハード両面あると思いますが、川尻委員が資質ということをおっしゃっていただきましたが、今の地域包括支援センター単体でそうやっていくというよりも、障がいとか困窮とか子どもの相談、それぞれ受けていらっしゃる場所とネットワークをはかっていくとか、人事交流を進めていくとかということがあるかもしれないですし、ステップが見えていかないと今の地域包括の体勢で全部やってと言われるとつぶれるということです。その他に、皆さん今日あと9時位をめぐり、紹介してくださったことにそってでも結構ですし、次に出てくるだろう施策の重点的なことへの期待ということでも結構ですし、いかがでしょうか。</p> <p>3Pの新たな制度改正で介護医療院とあるのですが、これはどんな施設かわからないです。</p>
<p>事務局</p>	<p>国の出している資料を読み上げるかたちになってしまうのですが、基本的には今後増加が見込まれます慢性期の医療介護ニーズへの対応ということがまず一つの目的としてあって、日常的な医学管理が必要な重介護者の受け入れや看取りターミナル等の機能、生活施設などの機能を兼ね備えた新たな介護保険施設ということです。</p>
<p>堀田会長</p>	<p>療養病床からの転換ということですので、新しいものをというよりも、より住まい機能を強化しつつ、療養できる場をという意味合いです。介護医療院と呼ばれているものです。もともとは病気療養病床です。他にご質問やご意見、いかがでしょうか。全体を通じてでも結構ですし、それぞれの立場からというのでも結構ですので、いかがでしょうか。</p>
<p>酒井委員</p>	<p>目の前の事業を推進していただけてもなかなか難しいのですが、楽しく集まれる場で、最低限のことをやっています。あとは個人的に趣味とかを持っている方が大勢いますので、私自身も65からあらためて始めたこともあります。それが自助になっているかわかりませんが、音楽を</p>

堀田会長	<p>始め楽器を演奏しています。あと、宿題の確認をしたいのですが、先ほどの基本理念は、吉川の施策を推進していく基本方針で、個人個人のことではなく、この施策を実施する上でこの基本理念があってということによろしいでしょうか。</p> <p>はい、そうです。今趣味の話がありましたが、いろんなデータがあり、日本全国の自治体のものが集まっていて、趣味やスポーツの会に参加している割合が高い自治体だと要介護認定になるのが遅くなるなど、抑うつ率が低いなどということがわかってきて、趣味やスポーツの会など1人でやっているものよりも集ってやっているものの方が、効果があるようです。食事も配食サービスよりも会食サービスの方が良いなど、いろいろとわかってきています。健康づくりからはいるのではなく、好きなことができる環境を作っていくというところから働きかけていったら、結果的に健康維持につながるというデータもでてきます。</p>
酒井委員	<p>高齢者という概念は、人によって健康体がバラバラな状態なのです。同じ年齢でも大変な方もいらっしゃいますし、90歳になってもすごく元気な方もいらっしゃいます。高齢者という言葉がありましたが、人によってとらえ方が全然違います。</p>
堀田会長	<p>10年間追いつけたという愛知県の自治体の方が、10年前からデータをとっているのですが、10年後にお亡くなりになっている割合をみると、10年前の段階で、人との交流の頻度が高ければ高い程、亡くなる方や要介護になる割合が低いということがわかりました。同じ年代でも元気な方とそうでない方の違いの背景がだんだんわかってきています。一通り骨子案についてご意見を頂くということで、中里委員、先程地域包括のことでおっしゃっていただきましたが、地域包括以外のところで何かありますか。</p>
中里委員	<p>私の場合は、むしろ自立する場合に、高齢者ということを目覚める人と目覚めていない人といいますが、ある程度目覚めをさせたほうが良いのではないかと思います。</p>
堀田会長	<p>私は、薬剤師会である中里委員が衣食住の食とおっしゃってください</p>

中里委員	<p>たのがすごく印象に残っています。ひそかに薬から食へと言われている流れもあり、何でも弱ってきたら薬に頼るのではなく、食からというのを中里委員がおっしゃってくださる重みというのを感じました。</p>
村岡委員	<p>介護施設などで一番困るのは、食べ物の調整です。それからくる便秘、後始末というのが、高齢者の中では一番困っていることです。如何に食生活が大事かということを知りたいです。</p> <p>堀田会長食は、孤食なのか共にする食事なのかも、健康も変わってきたりします。仕事の職もですが、食べ物の食も切り口にできることなのかと思います。</p>
堀田会長	<p>新しく施設にするよりは、吸引が出来るヘルパーを増やすなど、在宅にということであれば、そのようなことをしなくてはいけないのではないのでしょうか。私の施設ではその資格を取る為に大阪まで通っていました。資格取得を自治体など近いところで取れるようになれば、吸引の資格をもって介護していけるようになるのではないのでしょうか。</p>
戸張委員	<p>以前もその点を指摘いただいていたいました。そして施設に行かなくても済むような地域でのサービスの充実ということです。</p>
堀田会長	<p>国の方の方針にそって作っていると思いますので、下の方の任意記載事項に皆さんの意見を入れたものを作ればと思います。</p>
浅見委員	<p>はい、ありがとうございます。</p>
堀田会長	<p>2Pの図のように、国の方針でモデル地区をつくったと思いますが、その中に老人クラブとのついでありますが、これについて私達がどこまで顔をだして良いものなのか、早めにつかんで協力したいというのが現状です。</p>
浅見委員	<p>老人クラブとしては、こんなことをもっとやっていきたいとか、逆にもっとやって欲しいというようなことはございますか。</p>
浅見委員	<p>今のところはそこまで考えてないのですが、市の為に、老人として出</p>

堀田会長	<p>来る範囲で協力したいと思っています。元気な人がたくさんいますので協力したいということだけです。</p>
飯田副会長	<p>すばらしいです。やってくださいというのを聞きなれていて、協力したいとおっしゃってくださって、ありがとうございます。</p>
事務局	<p>生活困窮者はどうなっているのでしょうか。事業として何かやっているのですか。</p>
飯田副会長	<p>生活保護の担当と合わせてというかたちで相談を受けている取り組みや就労支援をしています。</p>
堀田会長	<p>市が直営でやっているのですか。</p>
飯田副会長	<p>市が直営で相談を受けて就労支援まで市がやっているのですか。</p>
堀田会長	<p>市が直営でやっているのであれば、次の計画で一体になれるチャンスがありそうです。生活困窮者、生活保護予備軍は、どうしても高齢者がなりがちなので、切っても切り離せないところだと思います。地域包括ケアは結構深刻で、既存の介護保険の制度の中の地域包括支援センターは制度の中しか見てないので、実際地域に出てみると窓ガラスが割れて電気もガスも止まっていて明日の食べる物も無い人が意外に結構います。そのような人たちは見えてなくて、本人達もそれが困った状況だと認識していないというのもあり、アウトリーチして、そのようなニーズを掘り起こし、何らかどこかの社会理念とつなげて、見守っていくのか、改善できるところがあるのか、そういったソーシャルワーク機能が地域に必要なようになってきて、それが例えば年間2千万円の予算がかかりますということがあったとして、ここでの上昇のいくらかが抑えられるという可能性があるのなら、それはありなのではないでしょうか。地域に出ていく相談支援機能のようなものは必要になってくると思うので、その辺はかなり重要かと思っています。</p>
堀田会長	<p>ランチ的なものとして受けるのか、日常の生活の身近なところでまると受け止められる機能を、機関として連携しながらだしていくこと</p>

飯田副会長	<p>も考えられます。待っていても件数はどんどん増えていき深刻化したものを受け止めざるを得ないというものになってしまいます。</p> <p>制度としての相談機能がある程度まとめるというやり方と、例えば市の単独で4人のチームを置きますというやり方と、やり方はいろいろあると思いますが、制度と切り離れた方がより面白いかもしれないです。</p>
堀田会長	<p>動きが取りやすいこともあります。住まいの点も出ていましたが、15Pのところ安心して暮らせる住環境づくりというのがありましたが、新しい住宅設定等もはじまりますので、居住支援協議会などないのであれば立ち上げてということもあると思いますが、他方で地域インタビューの中からもシェアハウス、高齢者を含めた多世帯と一緒に暮らせるシェアハウスのようなものというものでしています。あらたな住まい方という観点から高齢者の役割や参加というようなことを、既存の物件を活用しながら考えるということもあるかもしれません。今までの意見でできたことを、次なる施策の中で、飯田委員がおっしゃった何か目玉3本に関連してくることかもしれません。理念に基づいたものが開眼されていくのだという、象徴になるような何かがあると、次なる希望が持てると思います。</p>
飯田副会長	<p>そういうことをやっている何かがあると、みんなが元気になっていき、他の事業者も元気になっていきます。何か、吉川市はこれをやっている！という何かを出した方が良いと思います。</p>
堀田会長	<p>皆さん、あと一声ありませんか。</p>
酒井委員	<p>基本理念で地域を作るということで、かなり力を入れているような気がしますので、施策を作っていくということになるかと思いますが、作るということを強くうたっているのを感じました。</p>
堀田会長	<p>未来を一緒に切り開いていくという、行政が作ってくれるのではなく、私達が作っていかうという意味合いです。他にいかがでしょうか。たくさんのご意見ありがとうございました。これで事務局に戻りたいと思います。</p>

<p>事務局</p> <p>堀田会長</p> <p>中里委員</p> <p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>3 その他</p> <p>(今後のスケジュール説明)</p> <p>理念は皆さんにお渡しするのですか。</p> <p>事務局皆さんに紹介させていただいて、ご意見を頂ければと思っております。</p> <p>これは何回やるのですか。</p> <p>次の会で素案を策定しまして、それを基にパブリックコメントをかけたまして、そのパブリックコメントの結果を踏まえてもう一度会議をして、最終的な推進協議会としての案を決定したいと思います。出来れば、後2回と考えているところです。</p> <p>4 閉会</p> <p>長時間に渡りまして、いろいろなご意見をいただき、ありがとうございました。本日の推進協議会をこれで終了とさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>(閉会)</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>署名委員 署名委員</p>	